

千代田区立障害福祉センター  
えみふる

# ANNUAL REPORT

## 2021

楽しく乗り越える！

2021年度 年次報告書

社会福祉法人武蔵野会



# えみふるアニュアルレポートのコンセプト

千代田区立障害者福祉センターえみふるの“えみふる”とは、「笑みがあふれる」という意味です。利用されている方、地域の皆さんの笑みがあふれるような温かい支援を提供しています。

2010年に社会福祉法人武蔵野会が指定管理者として運営を開始し、2020年からは新たな10年がスタートし、「人と人、地域をつなげる『絆』を創り出す」ことをミッションに掲げています。そして障がい等のあるなしに関わらず、その人らしさが尊重され、住み慣れた地域で安心して暮らし続けられる千代田区の実現へ向けて支援を充実させます。私たちは、人と人との絆が地域社会の基盤であると考え、絆社会の実現によって地域を活性化させ、千代田区に関わる皆さまを元気にできる施設を目指します。

私たちは、そのミッションを実現させるために10年間の事業計画と目標(ロードマップ)を作成しました。そして毎年、活動内容の成果や進捗をわかりやすくお伝えするため、年次報告書(アニュアルレポート)を発行することにしました。

本報告書によって、より多くの方に千代田区立障害者福祉センターえみふるについてご理解を深めていただき、今後ともご協力いただけますと幸いです。

## 2021年度テーマ「楽しく乗り越える！」



2021年度も変わらずコロナウイルスが猛威を振るっていますが、下を向いてばかりはいられません。困難な経験をしているからこそ当たり前ことに感謝し、その気持ちを忘れず前向きにみなさんと一緒に「楽しく乗り越える！」ことをモットーに1年間取り組んでまいりました。

表紙は利用者の方、そして職員が押印して、「絆社会」のつながりをイメージして作り上げました。

# 2020年～2030年 えみふるロードマップ17項目



千代田区立障害者福祉センターえみふるが取り組むべき課題を17の項目に分けています。

1 交流人口はえみふるで交流をしている利用者の数、2 地域活動支援センター、3 ぷらっと御茶ノ水(サロンドウちよだ)、4 日中一時、5 グループホーム、6 ショートステイ、7 生活介護、8 基幹型相談支援、9 特定相談は障がい福祉サービス事業で、公的なサービスだけでなく、えみふる独自で行っている障がい者が直接利用出来るサービスも含まれています。

10 社会貢献、11 企業、12 大学、13 アダプテッド・スポーツ、14 人材育成、15 ボランティア、16 障がい者文化の発信、17 福祉防災機能は、障がい福祉サービスに限らず地域とえみふるがどのようにつながり、地域を活性化させていくのか、その取り組みとなります。

障がい福祉サービス事業、地域貢献事業の運営をしていくことがえみふるの社会的責任と考えています。すべての人が親しみや尊敬の感情を持つことができるように様々な機会を提供し、人びとが点から面へとつながる共生社会すなわち「絆社会」の実現を目指します。

# 2021年度 「楽しく乗り越える！」 17項目解説

2021年度の事業を総括・分析し、10年後の目標達成に向けて、来年度以降の目標を記しています。また各事業、人数や利用率など数字を2020年度と比較し、どのように変化をしているのか分析を行っています。一目でわかりやすいように「笑みふる」マークで成果を以下のようにあらわしています。

 = 達成  = 維持  = 未達成  = 新規事業

## 1 交流人口



## サービス継続で増える交流人口

コロナウイルスへの感染対策を行いながら、サービスを継続して来ました。電話での相談が減少傾向にあった一方で、団体利用や行事、公開講座、ボランティア、来所しての相談が増加傾向にあったことが、交流人口の増加に繋がっています。このことから全体的に利用再開へ向けて来所する方が目立ち、顔を合わせた付き合いの大切さを感じることもとなりました。リモートで便利になった一方で、人と人が直接関わる大切さも同時に知ることとなりました。ウィズコロナ、アフターコロナを見据えて、その場面に合わせた選択が出来るように、交流の仕方の幅を広げていきます。



交流人口

**18,923名**

2020年度  
16,682名  
2,241名 増加



## 2 地域活動 支援センター



## 障がいにとらわれない共生社会を目指して

年度途中での募集を積極的に行うなど参加者の拡大を図りました。2020年度に引き続き、公開講座を開講し、障がいのあるなしに関わらず、広く千代田区に関わる人たちが交流する場を設けました。また、人気のあるヨガ教室とネイルサロンを定期プログラム化し、参加率も上昇しています。2021年度からはパソコンサロンをパソコン・スマホサロンに変更し、時代のニーズに合わせた内容へ変更します。



講習会利用率

**63.7%**

2020年度  
54.1%  
9.6% 増加



### 3 ぶらっと御茶ノ水



利用者数

**52名**

2020年度  
2名  
50名 増加



## ぶらっと気楽に過ごせる場所に

講師プログラムの同講座を日中と夜の2部制とし、日中在宅者と就労者、家族を対象にライフスタイルに合わせて、どちらでも参加が出来るようにしました。これを基に、参加しやすい時間や内容、時期を精査し、家族も含めて楽しめる時間を提供します。また、講師プログラムやイベントに参加するだけでなく、働く体験の場として、アキバ分室へ出張パン販売に行きました。居場所としてだけ利用するのではなく、体験を通して、社会での役割を見つけ、地域での居場所が増えるように外での活動も増やしていきます。



### 4 日中一時



スマイルちよだ

**1,568名**

2020年度  
1,095名  
473名 増加



## 心を豊かに

スマイルちよだは、講師プログラムとしてアート教室を毎月1回の開催とし、新たにフラダンス教室を開始しました。両方とも人気講座で毎回定員に達する10名近い申し込みがありました。今後もプログラムの充実を行い、参加者が楽しめる企画を行っていきます。

レスパイトは4名の登録者で延べ23回の利用がありました。

タイムケアは問い合わせのみで、利用まではありませんでした。利用者のニーズに合わせたサービスとなるよう、調査をし、内容を検討していきます。



### 5 グループホーム



利用率

**100%**

2020年度  
85.6%  
14.4% 増加



## 利用率100%を実現

グループホーム内を季節に合わせて飾りつけをするなど、室内にいても四季を感じられるようにしています。また、毎週末ボランティアの受入れを行い、外部との接点を作っています。利用者と一緒にゲームや飾りつけの作成、掃除などを行っています。外出が難しい中で、各利用者の希望に合わせた誕生日会やWebコンサートの参加など、室内でも楽しみが増えるようにしました。



## 6 ショートステイ



利用率

**75.0%**

2020年度  
75.9%  
0.9% 減少



## 柔軟な受け入れ体制の構築

コロナウイルスにより、他区の利用者が利用を自粛したのと、2022年1月下旬から2月上旬にかけてコロナウイルス陽性者が出た為、受入れを一時中止していたことにより、利用率が減少しました。目標の100%へは到達していませんが、空きがあることにより、急な利用への対応を可能とし、区民の緊急的な受け入れの場としても機能することができています。また、アフターコロナを見据えた多様な利用方法について検討します。



## 7 生活介護



利用率

**48.0%**

2020年度  
38.5%  
9.5% 増加



## プログラム強化へ向けて

「アート」、「押し花・菜園」、「アクティブグループ向けのプログラム」、「重症心身障害者向けのプログラム」についての見直しを行いました。利用者一人ひとりの障がい特性にあった方法で活動が行えるように内容や支援方法を改善することでより楽しめる活動にしました。引き続き利用者の出席率向上を目標とし、プログラムの内容の充実を図っていきます。特に「押し花・菜園」と「アート」のプログラムを充実させ、将来販売できるような製品制作や作品展に出品することでやりがいに繋がるようにします。



## 8 基幹型相談支援



相談件数合計

**86件**

2020年度  
116件  
30件 減少



## 地域のコンシェルジュ

セルフプラン利用者への支援の件数が減りましたが、新規相談者が増加傾向にあることから、認知度という点においては上がっていると思われます。

2021年度は、区内の相談支援事業所を対象に、事例検討会を4回開催し、相談員の支援の振り返りの場としました。今後は、事例検討会を通して、個別の課題から地域の課題を抽出し、地域の課題解決へと繋げていきます。また、虐待防止と権利擁護のパンフレットを支援者向けに作成をし、虐待防止へ向けた広報活動と、権利擁護に関する啓発活動を行っています。



## 9 特定相談 (計画相談)



相談件数合計

**4,233件**

2020年度  
合計5,042件  
809件 減少



## 新規利用者を受け入れる体制へ

コロナ禍における事業所等の利用の仕方の多様化や社会常識の変化に伴い、新しい働き方や生活様式に利用者が慣れてきたことで電話相談が減少し、訪問や来所相談へ変わりました。長引く新型コロナウイルスの影響による利用者の不安に対し、じっくり時間をかけ向き合った結果とも言えます。一方で区民新規利用者の受け入れ件数は27件で、断った件数は0件でした。2021年度も相談員一人当たりの担当ケース数の調整を行い、全ての新規利用者の受け入れを達成することが出来ました。区内の相談支援事業所は限られている為、今後も受け入れを可能とするように調整し、利用者が地域で自立して生活が送れるよう支援にあたります。



## 10 社会貢献



養蜂  
ボランティア  
参加

**26回**

2020年度  
6回  
20回 増加



## 養蜂プロジェクト始動

徒歩5分程の場所にある明治大学校舎屋上で、大学のゼミ活動として行っていた養蜂に参加させていただいていましたが、2021年6月にえみふるの巣箱を設置させていただき、いよいよ養蜂プロジェクトが始動しました。養蜂活動を通して障がいがある方の社会参加、地域交流の場となることを目指しています。また2022年には蜂蜜の販売を予定しており、ハチミツの瓶詰やラベル貼り、販売など障がいがある方の就労の場としても展開していきます。

また、ちよだコミュニティラボライブへ参加し、新しい力を生み出す基盤づくりのため、地域での活動の可能性について話し合いました。



## 11 企業との 連携強化



企業との連携

**7社**

2020年度  
5社  
2社 増加



## 地域を元気に

新たな取り組みとして、地域の2つの店舗と協力をして公開講座のイベントを開催しました。その他、利用者の作品展示、ボランティア活動、屋上菜園活動、パン販売の実施、利用者との交流、ボランティア活動などを継続して行ってきました。2022年度はさらなる地域の企業や店舗との連携強化を目指して準備を進めています。また、ちよだコミュニティラボライブへ参加し、地域での活動の可能性について話し合い、新しい力を生み出す基盤づくりに努めています。



## 12 大学との連携強化



### 大学との連携

1校

2020年度  
2校  
1校 減少



## コロナ禍でもつながる

区内大学のボランティアサークルによるイベント等の開催は実施できませんでしたが、養蜂活動の継続により社会貢献(養蜂活動)の他に、明治大学のゼミ生との交流が深まりました。11月の激励慰安会(行事)で「お土産」の一つとして蜂蜜を提供した際は瓶詰作業に協力してもらい、東京ビッグサイトで12月に開催されたSDGsWeekEXPO(エコプロ2021)で出展していたゼミ生の研究発表へ職員が参加し、1月に実施されたゼミ生による「養蜂活動報告会」にZoomにて職員が参加しました。



## 13 アダプテッド・スポーツ



### アダプテッド・スポーツの普及講座

3回

2020年度  
3回



## 2020東京オリンピック・パラリンピック開催

2020東京オリンピック・パラリンピック開催をきっかけに、地域へのアダプテッド・スポーツ普及のため、講師を招いての「ボッチャ」講座を3回開講しました。

また、東京都障害者スポーツ協会とも連携し、障害者スポーツ普及啓発パネル5枚とタペストリー1枚を借用し、館内展示を行いました。

8月と12月には講師を依頼し、職員のアダプテッド・スポーツに対する理解を深めました。



## 14 人材育成



### 実習生等受け入れ

計14名

2020年度  
計11名  
3名 増加



## カリキュラム見直しで指導の質向上

精神保健福祉士の受け入れは実習指導者が2020年度末で異動した為、不在となり、受け入れを停止しましたが、社会福祉士の依頼が増えたことと新規で保育士実習を受け入れた学校が1校増えたことにより増加しました。2020年度見直しをした実習カリキュラムを基に1日4名まで受け入れ、検証を行う予定でしたが、同時期に4名の受け入れがなかった為、検証は行えていません。今後も質等の検証と対応ができる職員の育成を行います。



## 15 ボランティア



### ボランティア数

**231名**

2020年度  
144名  
87名 増加



## ボランティアも輝ける場づくり

ボランティアの受け入れは平日のみだけでなく、土日のグループホームや公開講座でもボランティアを受け入れることで受け皿を増やしたり、平日は午前・午後・夕方と参加しやすい時間を選択できるようにしたことで定期的にボランティアに来てもらえる方が増えたことが、ボランティア数の増加に繋がりました。今後は、より一層ボランティア自身が輝ける場が増えるように新たな受け皿の確保に取り組んだり、ボランティア側の意見を聞きながらボランティアを行う側のニーズにもあったボランティアを行う機会を提供できるように努めていきます。



## 16 障がい者文化の発信



### 障がい者アート受賞

**1作品**

2020年度  
2作品



## 障がい者アートの拠点になる

西神田児童センターとえみふるが地球環境を守るために海上汚染問題をテーマにプラスチックアート作品を共同制作し、4月には三井住友海上のコミュニケーションスペースで、6月には千代田区立日比谷図書文化館で展示を行っています。海洋プラスチックごみ問題や地球環境についてアートを通して身近な視点で学び、感じられる作品展となりました。また、えみふるの利用者とボランティアによる共同作品『とびだせ！ダンちゃん』が「アートパラ深川2021」でセブンイレブン・ジャパン賞を受賞しています。えみふるでは今後もアーティストとして利用者の作品を広く区内企業や関係団体へアピールしていきます。



## 17 福祉防災機能



### 受け入れ可能人数

**42名**



## 福祉避難所として

ちよだモデルネットワークに参加し、3月は災害学習会として四ツ谷駅周辺地区帰宅困難者対策地域協力会事務局による「滞留する帰宅困難者に対して何が出来るのかを考える」講演会に参加し、地域災害対策への意識を高めました。ちよだモデルネットワークは区内団体、企業、大学等が参加しており、えみふるを知らない方々にも障がい者の施設としての認識に繋がりました。

また、施設としてもBCP(事業継続計画)の作成や机上訓練を実施。災害用品の見直しも行いました。





## 武蔵野会基本理念

### 自分を愛するようにあなたの隣人を愛せよ

講習会・公開講座

作業療法(定員:14人)

理学療法(定員:1日当たり6名)

言語療法(定員:1日当たり4名)

地域生活リハビリ・高次脳機能障害者リハビリ(定員:5名)

社会適応支援・就労をしている障害者向け(定員:10名)

療浴サービス(自立浴、半自立浴、機械浴)

団体利用(会場の貸出)

ぷらっと御茶ノ水(サロンドウちよだ)・心の病を抱えた方向けのサービス

日中一時支援事業(スマイルちよだ、レスパイト、タイムケア)

グループホームふぁみりあ(定員:4名)

ショートステイふぁみりあ(定員:1日当たり4名)

生活介護事業(定員:20名)

基幹型相談支援事業

特定相談支援事業(計画相談)

社会福祉法人 武蔵野会

千代田区立障害者福祉センターえみふる

発行:2022年12月

〒101-0062 東京都千代田区神田駿河台2丁目5

TEL : 03-3291-0600

FAX : 03-3291-0608

Email : emifuru@chime.ocn.ne.jp

公式サイト



<https://emifuru.com/>

twitter



Instagram



facebook

